

五歩に休
し十歩に
憩ふ

一大三稜
鏡

ツーチー

や。花崗岩の碎片處々に露出し、一見其の何處より歩を進めんかと躊躇せしむるも此の花崗碎岩の露出するもの無かりせば、如何に慎みて身を持するも一進一滑顛躓相踵ぐや必せり。况んや頭上數丈の氷崖は、時に石を落し來るをや。其危険言ふべからず。固より騎行すべくもあらず、されば、徐々たる歩武を以て呼吸を養ひ、五歩に休し、十歩に憩ひ、辛うじて此の難關を通過し畢れば、頭痛一層甚しきを覺ゆ。蓋し嶮路を跋涉中は復た頭痛を思ふの暇なかりしなり。

大嶺を過ぎ來れば、相踵で二箇の少嶺あり。其の大嶺と小嶺の間に、一小池を湛へて、池畔は氷層相重なるもの數十尋、玲瓏青玉を湧出せしが如く、太陽の之を直射するや、忽ち五彩の光を放ち、紫玉、青玉、珠玉、黃玉燦々相映じ、爛々相照し、一彩は一彩と合して一彩を作り、更に一彩他彩と合して別彩を作る、紫玉は忽ち白玉と變じ、白玉忽ち綠玉と化す。大凡色彩の有らん限りは、光線と視線との作用に因て、千態萬狀一ならず。今しもセシル嶺の超過、氷河の險に、心神共に疲勞せし一行は、此の奇絶快絶の美觀に打たれて、恍惚たること稍々久し。

斯て午後二時四十五分、行程約七里、ツーチーヤイラクに到着せり。此處も亦燃